

草原構成種「ススキ」の地域性系統についての見解

「自然公園における法面緑化指針（環境省・2015年）」では

- ・地域固有の生態系に配慮し、植物を導入する場合は原則として地域性系統の植物※1のみを使用すること（4.1 前提条件）。

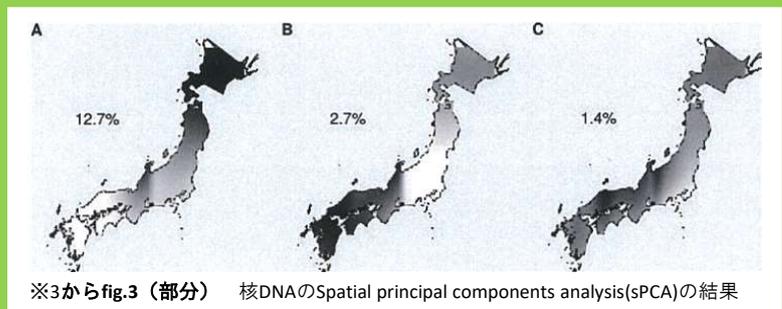
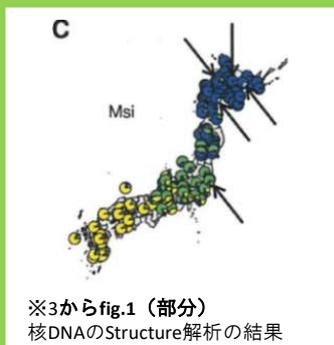
【解説編】

※1. 地域性系統の植物とは、在来植物のうち気候や地形などの影響により、遺伝子型を共有する集団で、遺伝子型とともに形態や生理的特性などの表現型や生態的地位にも類似性や同一性が認められる集団をさす。

※2. 植物個別の地域性を考慮して共通する地理的範囲を統一的に示すことは、現時点で困難であるため、地域性系統の植物の地理的範囲は「当該自然公園内の可能な限り施工地から近い場所から施工地と類似する環境に生育する種を採取する」ことを基本とする。

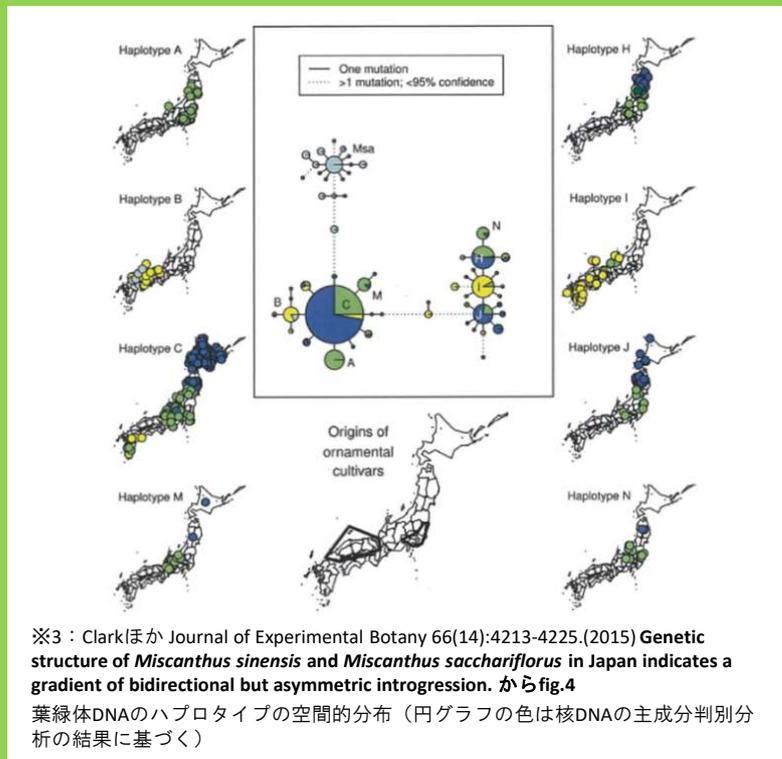
◎ 最新のススキの遺伝的地域区分（北海道～九州地方）

ススキについては地域性系統を比較するための科学的情報が比較的豊富にあります。



- ・核DNAと葉緑体DNAの結果を合わせて考察することで、3～6地区に分かれる可能性がある。
- ・阿蘇地域は、3地区に分けた場合は西日本地区に、6区分に分けた場合は九州地区に属することになる。
- ・葉緑体DNAのハプロタイプB、C、Iの分布は、九州地方とその他の西日本で異なる。

阿蘇地域で採取されたススキを、同地域内で自然再生のために利用することについては、基本的に問題ないと考えられます。



※ 2018年7月現在の科学的知見に基づいた、ススキについての見解です。
※ ススキは同一の山においても標高の高低によって開花時期が異なるという報告もあるため、できるかぎり似通った立地条件下から採取したものを使用することが望ましいとされています。

URL : http://www.jsrt.jp/tech/ASO_project.html
E-mail : aso-pro@jsrt.jp

日本緑化工学会
生態・環境緑化研究部会